

26年4月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成26年 3月20日 ~ 26年4月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
4月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight.D.I.

品目		26/4月	5月	6月
入荷動向	国産材	16.7	8.3	0.0
	外材	66.7	8.3	8.3
在庫動向	国産材	25.0	16.7	0.0
	外材	8.3	16.7	8.3

国産材ラミナの入荷は4,5月の減少が6月には横ばいに、外材は4月の大幅減が5月のやや増を経て6月にはやや減少に。
国産材ラミナの在庫は4,5月の増加が6月には横ばいに、外材は4月のやや減少が5月の増加を経て、6月にはやや減少に。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight.D.I.

品目	26/4月	5月	6月
国産材	0.0	8.3	16.7
欧州材	20.0	10.0	0.0
その他	100.0	50.0	0.0

国産材ラミナ購入価格は4月の保合が5,6月やや弱保合に、欧州材は4,5月のやや弱保合が6月には保合に。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・4月のカラマツラミナの入荷量は発注に対し8割弱程度と見込まれ、依然入荷状況悪い、スギラミナは潤沢に入荷。4月も前月同様、カラマツラミナ在庫は横ばい、スギラミナはやや増加と見込む。
・国産材は原木不足が徐々に回復してきているが、スギ原木は引き合い強く、価格も高水準なこと、土台角等の需要が落ち込みで増産に踏み切れない状況。北米材は冬が終わり山から原料下りてきて入荷量多くなると予想。ヒノキラミナは需給バランス取れているが市況悪化により一旦、在庫は増加、北米材はラミナ量が増加と予想。

(ラミナ価格動向)

・カラマツラミナは4月より他集成材メーカーの大幅な値上げと原木不足による原木高のため、急激な価格上昇、今後も強含みと見込む。
・ヒノキラミナは原木価格が下げ止まり、あまり変わらないが、梅雨期に向け少し下落の可能性。米ヒバは久し振りのストライキの影響で余分なコスト負担が生じ当月は大幅上昇が予定されるが、その後価格は安定すると予想。

26年4月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/4月	5月	6月
生産動向	国産材	33.3	8.3	16.7
	WW集成管柱	50.0	37.5	50.0
	R W集成平角	75.0	62.5	75.0
	米マツ集成平角	75.0	50.0	50.0
	WW集成平角	100.0	100.0	50.0
出荷動向	国産材	50.0	25.0	8.3
	WW集成管柱	83.3	66.7	66.7
	R W集成平角	87.5	75.0	75.0
	米マツ集成平角	75.0	50.0	25.0
	WW集成平角	-	-	-

国産材、WW集成管柱、RW集成平角、米マツ集成平角の生産はいずれも減少傾向で推移。

出荷についても、いずれの品目も減少傾向で推移。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	26/4月	5月	6月
スギ集成管柱	0.0	16.7	0.0
ヒノキ集成柱	12.5	0.0	0.0
ヒノキ集成土台	12.5	0.0	0.0
カラマツ集成土台	0.0	25.0	0.0
WW集成管柱	16.7	33.3	0.0
R W集成平角	25.0	0.0	0.0
米マツ集成平角	0.0	25.0	0.0
WW集成平角	-	-	-
米ヒバ土台角	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成平角	0.0	0.0	0.0

スギ集成管柱及びカラマツ集成土台の出荷価格は4月の保合が、5月のやや弱保合を経て6月には保合に、ヒノキ集成柱、土台は4月のやや弱保合が5,6月には保合に、WW管柱は4,5月の弱保合が6月には保合に、RW平角は4月の弱保合が5,6月には保合に、米マツ平角は4月の保合が5月の弱保合を経て6月には保合に。米ヒバ土台及びカラマツ平角は共に横ばいで推移。

モニターからのコメント

(構造用集成材荷動き)

・4月に入り需要は更に減退傾向で推移、繰り越し受注残もほぼ消化済みのため生産キャパに余裕出るも、依然カラマツを中心にラミナ供給は逼迫しており必要量確保できず生産量は横ばい推移。出荷は製品需要が日を追って減退しており幾分納期が早まっている。当面カラマツラミナ供給の好転は期待できないが製品需要の落ち込みで需給バランスが取れてくるのではないかと。

(構造用集成材出荷価格動向)

・スギラミナの供給環境は緩和してきており製品需要も一時期よりは落ち着いてきている。競合樹種等の価格動向で値下げ要請は必至だが、ラミナ価格は高止まりしているため現状価格の維持に努めたい。4月からのカラマツラミナ大幅値上げに伴い販売価格への転嫁は必至も、需要減退、競合樹種の市況により値上げが通らない、当面、値上げできる環境になくラミナ価格高止まり推移が予想される中、採算面は非常に厳しい。・顧客が在庫多く抱えており、下げの要望も出始めているが、下げても出荷量増える見込みはあまりない。材料価格もヒノキは徐々に安くなる見込みがあるが現状、高い材料使っているため、一部多少の値下げもあるが、しばらくは弱含みのまま推移と予想。